

## 平成 22 年 度 事 業 計 画

### 1 日本学の総合研究

日本学に関する研究を、平泉澄博士の学問を継承して行う。

「日本学協会創立 60 周年記念事業」（別紙）に基づいて、下記の如く研究会を開催する。

#### ア 中央研究会

平成 22 年度を初年度とする「研究事業 5 カ年計画」に基づいて、「わが国が直面する重要問題」に関する総合的研究会を行い、その成果を『藝林』及び『日本』誌上に発表する。（年 6～8 回）

日本学を普及するため、学生・青年を対象とする公開の研究会を新設する。（年 10 回）

#### イ 地方研究会

前年度に引続き、水戸・伊勢・岐阜・京都・名古屋等の各地方に於いて、日本学に関する定例研究会を行う。

### 2 日本学に関する講演会・講習会の開催

#### ア 講演会

日本学に関する講演会を前年度に引続き国内各地に於いて行うほか東京及び関西において公開講演会を開催（共催）する。

東京 4 回、福井 3 回、水戸 3 回、伊勢 2 回、名古屋 1 回、大阪 1 回、京都 1 回、福岡 1 回、熊本 1 回、岐阜 1 回、佐渡 1 回。

公開講演会（東京、関西、藝林） 合計 22 回。

#### イ 講習会

日本学普及のため、下記の如く講習会を開催する。

時期：8 月下旬

対象：学生・生徒・その他。

### 3 日本学に関する雑誌・図書の刊行

#### ア 『藝林』の編集・刊行

日本学の研究成果を発表するための学術誌『藝林』を年 2 回編集・刊行する。

#### イ 『日本』の編集・刊行

日本学を普及するための雑誌『日本』を年 1 2 回編集・刊行する。

#### ウ 図書の刊行・普及

平成22年度を初年度とする「図書刊行5ヵ年計画」に基づいて、絶版図書の復刊を計画的に実施するとともに日本学関係図書の刊行並びに刊行助成および既刊図書の普及を引き続き実施する。

#### 4 図書・資料の整備

##### ア 書庫の整備

日本学に関する図書・資料を収集・購入して書庫を整備する。

##### イ 「日本学資料館」の整備

資料収集および収蔵資料の整理・配架等、資料館の整備を実施する。

[別紙]

## 財団法人日本学協会創立60周年記念事業計画

- 1 目的：平成28年の日本学協会創立60周年を目途に、平成22年度から協会の総力を結集して「記念事業」を実施する。  
記念事業は、当面研究事業5ヵ年計画と図書刊行5ヵ年計画とする。

### 2 研究事業5ヵ年計画

- (1) 中央研究会において「わが国が直面する重要問題」を研究し、その成果を公表する。

研究の主題：わが国が直面する深刻な諸問題について、今後わが国が抛るべき理念、進むべき方向と対応を歴史の教訓を踏まえて研究する。

[研究テーマ]

- ①皇室、憲法問題。
- ②政治、外交、国防問題。
- ③教育、思想問題。
- ④経済、環境問題。
- ⑤その他（日本学関係資料の収集整理等）。

研究題目の指定と成果の発表

研究題目の指定は、研究者の申出を基本とするが、一部は依頼する。  
研究成果は、論文で提出するとともに要旨を定例研究会で発表する。  
研究成果の公表は、『藝林』または『日本』において行う。

研究費の支給：研究論文に対しては研究費または研究謝礼を支給する。

資料収集費の支給：日本学関係資料の収集に対しては所要の経費を支給する。

- ※ 先哲研究：上記の研究とともに「先哲」の研究を分担実施する。  
研究は、研究者の申出を基本にして担当者を指定する。

- (2) 地方研究会：現行どおり。

- (3) 公開研究会：日本学を普及するため、学生・青年を対象とする研究会を新設する。  
参加者の募集は『日本』誌のほかホームページ及び新聞広告で行う。

- ①幕末の志士に学ぶ会（年4～6回、場所：靖国会館等）
- ②国土防衛史を学ぶ会（年4～6回、場所：偕行会等）

### 3 図書刊行5ヵ年計画

- (1) 日本学に関する絶版図書の刊行

22年度：武士道の復活（錦正社）、国史学の骨髄（錦正社）、寒林史筆（立花書房）。

23年度以降の刊行：建武中興の本義（日本学協会）、萬物流転（皇大学出版部）、我が歴史観（皇大学出版部）、首丘の人大西郷（原書房）、父祖の足跡（金沢工大出版局）、明治の光輝（日本学協会）

(2) 定例研究会の成果：論文集の刊行を予定する。

(3) 『日本』総目録（創刊号～第60巻）の発行  
創立60周年記念事業として22年度に実施する。

4 その他の事業：地方の講演会、定例講演会、講習会、『藝林』・『日本』の発行事業は現行どおり。